

## 【教育】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

### 1 大学受験期における達成目標志向性とソーシャルサポートがストレス関連成長におよぼす影響

久留米大学心理学研究科 竹ノ内歩加 ★  
久留米大学文学部心理学科 原口 雅浩  
久留米大学文学部心理学科 江村 理奈 #

本研究は、大学生を対象に質問紙調査を行い、達成目標志向性（熟達目標、遂行目標、課題回避目標）とソーシャルサポート（誰から：先生、友人、家族；どんな：道具的、情緒的、共行動的）、および達成目標志向性とソーシャルサポートの交互作用が、大学受験に対するストレス関連成長（他者との関係、新たな可能性、人間としての強さ）に、どのような影響を与えるのかについて検討したものである。

### 2 中学生に対する反すう低減プログラムの長期維持効果の検討

久留米大学文学部心理学科 堺 加奈子  
福岡県大牟田児童相談所 金城 優花  
久留米大学文学部 江村 理奈

本研究の目的は、中学生における反すう低減プログラムの長期維持効果及び維持促進の手続きによる効果の検討であった。中学校3年生54名がプログラムに参加した。また、中学校3年生200名を統制群とした。維持促進のためのプログラムは、全2回であった。プログラムの効果を測定するために、ネガティブな反すう・抑うつ・不安の指標を用いた。

### 3 大学生のキャリア発達と主体的な学習態度(3)—キャリア教育と進路決定の連関—

鹿児島大学 島 義弘  
鹿児島大学 稲垣 勉

キャリア教育がアイデンティティの明確化、ひいては主体的な学習態度の涵養につながることを実証することを目的とした研究の一環として、キャリア教育に関する授業を受講することが学生の進路決定に資するものとなるのかを検討した。約4か月の短期縦断研究の結果、キャリア教育の受講の有無に関わらず、進路の決定・未定に変化は認められなかった。キャリア教育は、少なくとも直接的には進路決定に寄与しないことが示された。

### 4 教員養成における実務家教員の役割の検討2

鹿児島大学教育学系・教職大学院 迫田 峻

教職大学院の充実・規模拡大が求められているが、教員養成の中核は学部段階における教職課程が担っているのが現状である。教職課程を担当する実務家教員の講義が、受講者のどのような側面に影響を及ぼしているのかを検討することによって、講義内容及び指導方法の工夫・改善など教職課程のカリキュラム・マネジメントにも示唆を得ることを目的とする。

## 【感覚・知覚、認知】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

### 5 受動運動時の自己運動速度の違いが身体近傍空間に与える影響

熊本大学大学院社会文化科学教育部 黒田 尚輝 ★  
熊本大学大学院人文社会科学部 寺本 渉

身体近傍空間 (PPS) は、外部環境と相互作用に重要であり、自己運動時の拡大が知られている。しかし、自己運動速度の影響は明らかではない。本研究では視覚的な自己運動感覚 (ベクション) を用いてその影響を検討した。PPS の範囲は課題無関係視覚接近刺激が胸部呈示触覚刺激の反応を促進する奥行き距離とした。結果として、遅い速度と比べて速い速度ではより遠い距離まで反応促進し、自己運動速度の PPS 拡大への寄与が示唆された。

### 6 高齢者の認知・脳機能に及ぼす楽器練習の効果

熊本大学 郭 霞 ★  
京都大学 山下 雅俊  
大阪大学 鈴木 麻希  
武庫川女子大学 大澤 智恵  
京都大学 浅野 孝平  
京都大学 阿部 修士  
京都大学 積山 薫

近年、介入研究により、楽器訓練で高齢者の認知機能を向上できる可能性が示唆されているが、その神経基盤に及ぼす効果の研究はほとんど行われていない。そこで、本研究は4ヶ月の鍵盤ハーモニカを用いた楽器練習が高齢者の認知・脳機能 (fMRI にて計測) に及ぼす影響について行動・WM 課題遂行中の脳活動・機能結合の3つの指標からランダム化比較試験による検討した。

### 7 不正行為を制御する環境とは？—室温に着目した実験心理学的検討—

九州大学大学院人間環境学府 劉 歡緒 ★  
九州大学大学院人間環境学府 楊 静雯 #  
九州大学基幹教育院 山田 祐樹

不正行為についての研究は多いが、物理的環境が不正行為に与える影響を調べた研究は極めて少ない。そこで本研究は、部屋の温度が不正行為に与える影響を明らかにすることを目的とする。事前の検定力分析に基づき82名以上の参加者を無作為に三群の温度条件に分けて賽子課題を実施し、分散分析によって検定する。さらに、相関分析で主観的な温度と不正行為の関係も検討する。

### 8 認知バイアスと小児における発達障害の特性との関連性

熊本大学大学院社会文化科学教育部 鈴木 暁子  
熊本大学大学院人文社会科学部 安村 明

人の意思決定に関わる認知バイアスについて、小児における発達障害の特性との関連性はまだ明らかになっていない。そこで、5種類全20問の認知バイアス課題を作成し、小児35例を対象に実験を行った。結果、課題の正答数と自閉症スペクトラム指数のコミュニケーションの重症度とに負の相関関係が認められた ( $r = -0.52$ ,  $p = .001$ )。他者とのコミュニケーション能力とバイアス化傾向との関連性が示唆された。

## 【社会・集団・文化】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

### 9 推測した他者の心的状態の不確実性の認識が円滑なコミュニケーションに及ぼす影響

九州工業大学 佐藤 友美

円滑なコミュニケーションには、相手の心的状態の正確な理解が不可欠であるという。しかし、他者の心的状態の正確な理解は、本来困難である。そこで本研究では、「推測した他者の心的状態の不確実性の認識」に着目し、214名(Mage = 22.21, SD = 2.57)を対象にウェブ調査を行った。その結果、不確実性の認識が高いほどコミュニケーションスキルが高く、対人ストレスイベント生起傾向が低いことから、不確実性の認識の重要性が示唆された。

### 10 友人関係における忠告の理想と現実—現代の若者に注目して—

佐賀大学教育学部 大元 誠

現代の若者の人間関係は、希薄であるとしてよく指摘され、表面的に親密に見えても必ずしも「心を許している」状態ではない感覚がある。そこには、傷つき回避や傷つけられ回避傾向があるとされている。そこで、親友・友人へ忠告することあるいは逆にされることについてどのように思っているのかについて検討した。その結果、親友・友人関係において、距離を置きながらも、なんとか関係を維持しよう努力する姿がみえる。

### 11 LINE プロフィールアイコンの変更行動を通じた自己呈示と対人認知

大分大学経済学部 加藤 風花  
大分大学経済学部 川野 綾華  
大分大学経済学部 廣瀬 亮太  
大分大学経済学部 井川 純一

本研究では、SNSにおけるプロフィールアイコン画像の変更行動及び、他者の変更行動への評価に、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求の二側面の欲求が与える影響について検討した。上述の二つの欲求の強度がアイコン画像の変更頻度を規定し、他者の変更行動に対する評価にはセルフ・モニタリング傾向が影響を与えると推測した。なお、本研究ではSNSアプリケーション『LINE』に着目して場面想定法による質問紙調査を行った。

【社会・集団・文化】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

12 YouTuber に対する認知に個人特性が与える影響

大分大学経済学部 真崎 一成  
大分大学経済学部 北崎 千尋  
大分大学経済学部 橋本望々香  
大分大学経済学部 井川 純一

YouTuber は近年、小中高生を対象に調査した「将来なりたい職業」で上位に挙げられるなど注目を集めている。一方で、それに対する批判的な意見も多い。そこで本研究では、嫉妬感情や成功恐怖、自己効力感などの個人特性が Youtuber に対する印象に及ぼす影響を検討する。嫉妬感情及び成功恐怖が高い者は Youtuber に否定的な印象を持ち、自己効力感が高い者は肯定的な印象を持つと推測した。

13 幸福感の多様性と新たな幸福感概念の検討

中村学園大学大学院教育学研究科 大屋 公 ★  
中村学園大学 教育学部 笠原 正洋

現在、幸福感を測定するいくつかの尺度がある。そして、尺度により測定された幸福感のスコアを基に、幸福感向上法の効果検証が行われている。しかし、幸福感の定義や判断プロセスは人によって様々であり、開発者の定義に基づく幸福感尺度では、幸福感の実態を測定できない可能性がある。そこで本研究では、インタビュー調査によって示された幸福感の判断プロセスの多様性を提示し、幸福感概念の新たな枠組みを提案する。

**【臨床・障害】**

第1日 11月16日(土)10:00～12:00

14 育児に悩む親の公的機関に対する援助要請の促進を目的とした介入プログラムの開発

宮崎公立大学	野崎	秀正
宮崎公立大学	川瀬	隆千
宮崎大学	立元	真
都城新生病院	後藤	大士
いわきりこころのクリニック	岩切	祥子
細見クリニック	坂邊	夕子
カリタスの園	岡本	憲和

子育て支援サービスとしての公的相談機関に援助を求める親は、実際に育児の悩みを抱えている親の母数に比してはるかに少ないとされる。この原因として、野崎ら(2018)は、公的機関への援助要請に対する態度の影響を明らかにした。この結果を踏まえて、本研究では、公的機関への援助要請に対する態度変容とそれに伴う要請意図の向上を促し、親の積極的・自立的な援助要請を可能にする介入プログラムの開発とその効果を検討する。

15 子どもの不適応行動への対応について—母親支援の視点から—

鹿児島大学教育学部 森藤 悦子

学校においては、教育相談週間やスクールカウンセラー配置など、体制を整えているにもかかわらず、学校や公的機関に子供の不適応行動について相談できず、不安を抱え混乱している保護者は少なくない。小児科におけるケースから、母親の心の安定が子供の学校における不適応行動の改善に影響を与えていることが考えられた。子どもの不適応行動への対応について母親支援の視点から考察する。

16 特別支援学校におけるキャリア発達支援の研究(5)

鹿児島県立武岡台養護学校 榎 慶太郎  
鹿児島大学教育学系 今林 俊一

本研究では、一般就労した特別支援学校(知的障害者)の卒業生を対象にインタビュー調査を行い、就労直後の卒業生の現在の状態を把握し分析することを通して、就労を継続するための効果的な関係機関との連携の在り方を考察した。その結果、働く意欲の基盤となり得る「働くことでの貢献感」などは、障害者雇用を支援する側の要因が大きいことが示唆された。

【情動・動機付け】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

17 怒り反すうの作用機序に関するモデル作成とそれに基づく怒り反すう低減プログラムの検討

医療法人社団豊和会豊前病院 塚元 一正  
福岡県立大学 小山 憲一郎

“怒り反すう（怒り体験について思い出して考えること）の作用機序モデルについて検討したところ、怒りを抑制することや怒り反すうをポジティブに捉えることは怒り反すうを促進する一方、マインドフルネス傾向の高さは怒り反すうを低減させることが示唆された。

モデルに基づいた、怒り反すう低減プログラムの作成・効果研究についても行ったところ、被験者の怒り反すう得点の低減、及びマインドフルネス得点の増加が認められた。”

18 高齢者の主観的健康感と他要因との関係について

熊本大学大学院社会文化科学教育部 渡 邊 弘 ★  
熊本大学大学院人文社会科学研究部 安 村 明

高齢者における主観的な健康感と認知機能との関連性は十分に解明されていない。そこで要介護高齢者 28 例を対象に主観的健康感尺度（SUBI）および各種認知機能検査を用いて検討した。年齢を制御変数として偏相関分析を行った結果、三宅式記銘力検査の成績と SUBI の心の健康度とに負の相関関係が認められた ( $r = -0.52, p = .032$ )。以上の結果から、高齢者における陽性感情には記銘力が関連することが示唆された。

19 再評価に関するメタ認知的信念尺度の作成

鹿児島大学 竹下 日菜  
鹿児島大学 榊原 良太

これまでの研究において再評価は適応的な方略であることが示されてきた。しかし、その適応性にも関わらず、その使用傾向には広範な個人差が存在することが近年明らかにされている。そこで本研究では再評価の使用傾向を規定する要因としてメタ認知的信念に着目し、その測定尺度の開発を試みた。因子分析の結果、4つの因子が抽出され、各因子と再評価の使用傾向の間に相関がみられた。

20 何のために趣味を行うのか～「オタク」に注目して～

鹿児島大学法文学部人文学科 池之上 瑠衣  
鹿児島大学法文学部人文学科 榊原 良太

研究1では、趣味とストレスの関係を検討するために、特に趣味に熱中している、趣味の内容が受動的な「オタク」を対象に質問紙調査を行った。結果、趣味とストレスとの間に有意な関連は見られなかった。結果を受けて研究2では、そもそも趣味を何のためにしているのか、背景を探るために質的研究を行うことにし、実施計画中である。

【情動・動機付け】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

21 自分に優しい人は他者にも優しいか-他者の失敗に対する認知にセルフ・コンパッションが与える影響-

大分大学経済学部	井手	紅葉
大分大学経済学部	伊藤	公平
大分大学経済学部	徳永	汐里
大分大学経済学部	井川	純一

本研究では、セルフ・コンパッション (SC) が他者認知に与える影響について検討した。SCが高い人は、苦痛や心配を経験した際に自分自身に対する思いやりの気持ちを持ち、苦痛に満ちた考えや感情をバランスがとれた状態に保つことができる。このSCが高い場合は、自らだけでなく、他者の失敗に対しても寛容になれる可能性がある。以上の内容について失敗場面の条件を操作した場面想定法を用いて調査した結果を報告する。

22 Motivation and Personality(第3版)における「再版序文」の転記不備について

神奈川大学 三島 斉紀

心理学の教科書を読んでいると、頻繁に目にするのがマズローの名である。彼は「自己実現」概念を提唱した事で知られている。彼は、それを Motivation and Personality にて説明した (1954年初版)。後に同著は彼自身の手によって修訂がなされ、1970年に再刊された。ところでその17年後、今度はR. フレイジャーらが編集者等となり、同著“第3版”なるものが公刊されたが、同著には序文箇所より幾つもの奇異が見られる。本発表では、この点について考察したい。

【発達】

第1日 11月16日(土)10:00~12:00

23 大人は幼児よりも非効率的に模倣をする—行為の種類が overimitation に与える影響—

九州大学人間環境学府 谷口 雄紀 ★  
九州大学人間環境学府 實藤和佳子

Overimitation はゴールに無関連の行為でも模倣する現象を指し、幼児から成人まで見られる。これまでの研究で、幼児はどのような行為でも overimitation するわけではないことがわかっている。一方で成人は同様に overimitation するか分かっていない。本研究では、数種の無関連な行為を設定し、幼児と成人が示す overimitation を比較した。その結果、幼児は行為の種類に影響されたが、成人は全て overimitation した。成人は、モデルとの社会的関係維持のため、全ての行為を overimitation したかもしれない。

24 絵本の読み聞かせと描画課題に対する意欲

鹿児島大学 岡元 綾香  
鹿児島大学 島 義弘

本研究は、幼児を対象に、保育活動の導入として行われる絵本の読み聞かせが、その後の描画課題に対する意欲にどのような影響を及ぼすかを検討した。具体的には、描画課題に関連している絵本を用いた群（課題関連群）と課題無関連の絵本を用いた群（課題無関連群）の描画課題に取り組む時間や描画課題の内容を比較し、意欲の差について検討をした。データ収集は終わっており、結果は当日報告する。

25 心の理論と時間的拡張自己がメンタルタイムトラベルの能力に及ぼす影響

鹿児島大学 工藤 遥  
鹿児島大学 島 義弘

メンタルタイムトラベル (Mental Time Travel; MTT) とは過去の出来事の追体験と未来の出来事の予測をすることであり、過去・現在・未来の時間的な広がりをもつ時間的拡張自己の理解、およびそれらの自己像を心的に表象する能力が必要となる。また MTT は、心の理論 (客観的に自己の状況や心情を推測する) との関連が予想される。本研究では、3~5 歳児を対象に心の理論、時間的拡張自己の理解が MTT の能力に及ぼす影響を検討する。

26 登校回避感情に関連する要因についての日中対比—ストレッサーおよびソーシャルサポート—

鹿児島大学教育学研究科 陳 燕群 ★  
鹿児島大学 島 義弘

登校している子供達が登校回避感情にうまく対処できなくなったら、不登校に陥るリスクが高まると考えている (森田, 1991)。本研究では日本と中国の中学生を対象とした質問紙調査を行い、ソーシャルサポート要因とストレス要因 (学業、先生との関係、友人関係、テスト不安) が登校回避感情に与える影響の日中比較を行った。これらの結果から、不登校を予防するための方策について考察を行う。



## 【教育】

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

### 27 地域の色から始まる教科融合型学習が児童の学習への認識に与える影響

大分大学教育学部 麻生 良太  
大分大学教育学部 藤井 康子  
大分大学全学研究推進機構 西口 宏泰

本プロジェクトでは、複数年に渡って同一学校で「地域の色から始まる教科融合型学習」を進めている。本研究では、児童たちが生活している地域の色を教材として用いることが、児童の学習への認識にどのように影響しているかを明らかにすることを目的とした。調査の結果、児童は地域の色という教材を出発点として、科学的視点や芸術的視点などへ学習への認識を広げていることが明らかとなった。

### 28 高校生における自由選択の感覚と人間関係の固定化が Well-being に及ぼす影響

大分大学福祉健康科学部 中里 直樹  
大分大学福祉健康科学部 古城 和敬

先行研究では、日本人の Well-being の低さには、「日本の社会環境における人間関係の固定化→人々の排除回避傾向の高さ→自由選択の感覚の低さ→Well-being の低さ」というプロセスが寄与していることが示されている（中里，2017）。ただし、このプロセスが日本の学校現場における児童・生徒にも適用可能かは未検討である。本研究では、大分県内の高校生を対象に、当該プロセスが認められるかを検討する。

### 29 小学生の理科に対する興味は演繹的な授業によって深化するのか

中村学園大学 小野あゆみ ★  
中村学園大学大学院教育学研究科 石田 靖弘  
中村学園大学 野上 俊一

理科授業では、実験を楽しむといった表面的なものだけでなく、理科に対する深い興味を持たせることが求められる。単元はじめに科学知識を伝達する演繹的な授業では、児童の理科に対する興味はどう変わっていくのか検討するため、田中・市川(2017)の興味深化の鼎様相モデルに基づいて授業観察を行った。その結果、児童や教師との会話の中で、伝達された知識を活用し、探求する姿が見られた。また、理科に対する興味も高かった。

### 30 読書の際の想像性に対する挿絵の役割

北九州市立大学大学院 森本 恵 ★

物語や小説を読むとき「挿絵」が「想像性（創造的なイメージ）」にもたらす効果や機能について検討した。予備実験における被験者（高校生）の「想像性高群・低群」それぞれに対し、条件が相違（挿絵なし・挿絵あり）した材料を使用し実験（2回）を行った。その結果、挿絵は物語を読む際の想像性を抑制する場合もあることが明らかとなり、「理解度」との関連から議論された。

【認知、行動、学習】

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

- 31 購買金額変動に伴うセールスプロモーション効果の推定-値引きとポイントどちらが嬉しいのか？-

専修大学人間科学部心理学科 安藤 正和  
専修大学 小杉 考司

中川(2015)は、購買場面における同額のポイント付与と値引きに対する知覚価値について、購買金額の大きさによって知覚価値の大小関係が逆転することを示した。本研究では、中川(2015)よりも購買金額の条件を細かく設定することで、購買金額の変動に伴うポイント付与と値引きの知覚価値の推移と、知覚価値の大小関係が逆転する金額を推定することを目的とする。

- 32 目標志向性の違いは解決不可能課題後の課題遂行過程に影響を与えるのか

中村学園大学大学院教育学研究科 寺尾 誠弘 ★  
中村学園大学教育学部 野上 俊一

荒木・砂川(2015)は、学習性無力感パラダイムを用い、学習目標の教示の違いが、無力感現象後の課題遂行過程や感情に影響を与えることを明らかにした。本研究は荒木・砂川(2015)の結果が再現されるか否かを検討すると同時に、個人特性としての目標志向性の違いも解決不可能課題後の課題遂行過程に影響を及ぼすという作業仮説の検討を行った。その結果、目標志向性が課題遂行過程における緩衝作用を持つ可能性が示された。

- 33 マウスの救援行動の性差の検討

鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース 松元 幸平  
鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース 浜島 香織  
鹿児島大学法文学部人文学科心理学コース 富原 一哉

近年、ラットやマウスなどの齧歯類も、困難な状況にある他個体を助けることが報告されている。この様な救援行動の背景には、他個体の苦痛を不快と感じる「共感性」があり、ヒトでは一般に「共感性」は女性の方が高いとされている。そこで、本研究では、Ueno et al. (2019)が新たに開発したマウス救援行動テストをICR系雌雄マウスに実施し、筒に拘束された他個体に対する救援行動に性差があるかを検討した。

- 34 ひらがな単語と漢字単語の読みの流暢性について～語彙判断作業課題の結果の関係性から～

鹿児島大学大学院教育学研究科 塚田 睦実 ★  
鹿児島大学大学院教育学研究科 岩崎 仁香 ★  
鹿児島大学教育学部 雲井 未欽

近年、読みのスキルについて、早期にニーズを把握し支援する必要性が指摘されている。そこで本研究では、通常の学級において、読みの速さに関するニーズを把握できるとされている語彙判断作業課題をひらがな単語及び漢字単語で行った。そして、双方の関係性を分析し、ひらがな単語の読みの流暢性が、漢字単語の読みの流暢性に関連していることが示唆された。

【社会・集団・文化】

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

35 大学生の社会的スキルと自尊感情の因果関係

日本文理大学経営経済学部 山本 義史

産業界や教育界において、若年者の「コミュニケーション能力」や「自尊感情（自己肯定感）」の低下を憂える声大きい。前回（2018）では、大学生の社会的スキルおよび自尊感情の年次変化をこれまでの蓄積されたデータから検討した。では、社会的スキルの向上は自尊感情を向上させるのか。本研究では、社会的スキルと自尊感情の縦断データを用いて、それらの因果関係を明らかにすることを目的とした。

36 プレゼント購入においてなぜ人は非合理的になるのか？

福岡女学院大学心理学科 渡邊 百香  
福岡女学院大学 分部 利紘

従来、他者へのプレゼント購入においては象徴的意味が重視されること、および店頭での購入は象徴的意味が強まることから、プレゼント購入では経済的効用の低い店頭購入が選択されると言われてきた。本研究では、プレゼントに対する他者の評価が不明確な場合に、非経済的・非合理的な選択が行われる可能性、そのような場合には、非経済的・非合理的な選択が他者への献身性の指標として認識されている可能性を検討した。

37 ハロウィンイベントにおける匿名性と反社会的行動の関連性

福岡大学人文学部 五反田 周  
福岡大学人文学部 田才 実来  
福岡大学人文学部 亀井 南央  
福岡大学人文学部 國生 夏海  
福岡大学人文学部 堤 千佳  
福岡大学人文学部 花田 実佳  
福岡大学人文学部 縄田 健悟

近年、ハロウィンがイベントとして定着する中で、イベント参加者の反社会的行動や暴徒化が問題視されている。その原因として、集団で仮装するという匿名性が高まったことが考えられる。本研究では、Diener（1976）が米国で実施したハロウィンでのお菓子持ち去り実験を基に、日本のハロウィンイベントにおいて、匿名性が高い仮装をした人は、反社会的行動を取りやすいという仮説を検証する。

【社会・集団・文化】

第2日 11月17日(日)10:00～12:00

38 集合的ノスタルジアが外集団成員への態度に与える影響

北九州市立大学大学院 邢 子 潞 ★

本研究は、3種のノスタルジア状態を喚起した場合に、ノスタルジアが内集団と外集団成員への態度に与える影響を調べた。ノスタルジアを喚起させた材料は時代の異なる懐かしい曲である。その結果、懐かしい曲が集団同一視程度を高めることができること示したが、ノスタルジアの種類による外集団成員への態度の差は有意ではなかった。それは外集団に対する態度の測定方法が不十分だったためであろう。これは今後検討すべき課題である。

39 大学生のキャリア意識と進路不決断について

北九州市立大学大学院 王 佳 琪 ★

本研究では大学生の就職動機の強さに影響している要因を明らかにするため、個人的な要因に特に注目したうえで、大学生161名を対象に質問紙調査を行った。その結果、進路不決断は自分らしさや個性を一貫させようとする傾向と関係していることが明らかになった。これについて、「自分」と「職業」の適切性より、自分というものと仕事している自分が一致することが進路不決断を防止することになるのか考察された。

40 平和教育の経験が平和意識に及ぼす影響—地域差を含めた検討—

琉球大学大学院 人文社会科学研究所 福本みなみ ★  
立命館大学 加藤 潤三  
琉球大学 遠藤 光男

日本では戦争体験の継承を目的とした平和教育が行われてきたが、平和教育を心理学的観点から検討した研究は少ない。そこで本研究では、現代の大学生の平和に対する意識を取り上げ、平和教育に関する先行研究を参考に平和意識の尺度化を試みた。さらに、沖縄・広島など、平和教育の地域による違いや、平和教育を受けた経験および平和意識に影響すると考えられる要因と平和意識との関連について調査した。

【臨床・障害、看護・医療、非行・犯罪】

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

41 階層的な視覚情報処理過程と自閉スペクトラム症の中核症状との関連性について

熊本大学大学院社会文化科学教育部 恵 明子 ★  
熊本大学大学院社会文化科学教育部 鈴木 暁子  
熊本大学大学院人文社会科学部 安村 明

自閉スペクトラム症には階層的な視覚情報処理過程の特異性が指摘されているが、中核症状との関連性を調べた報告は乏しいため、定型発達児 28 例を対象として検討した。結果、女兒において自閉症スペクトラム指数の社会的スキルの重症度と複合数字抹消検査の注意焦点の収縮や拡張の柔軟さの得点とに負の相関関係を認めた ( $r = -0.68$ ,  $p = .010$ )。社会的スキルと階層的な視覚情報処理過程との関連性が示唆された。

42 精神看護学実習における学生の十全的参加を支える看護職以外の専門職の関わり

中村学園大学大学院教育学研究科 教育学専攻 水田 進 ★  
中村学園大学教育学部 野上 俊一

看護学生は、患者を中心とした共同体へ越境し、各専門職種と関わりながら実習を行う。特に精神看護学においては、患者の個別性が高いため、治療過程において各専門職種の領域へとさらに越境し、協働することも必要となる。各専門職種は、看護学生にも治療的な役割があると考えており、自己の経験や知識から患者の状態や関わり方を看護学生に話し、協働的に看護学生を共同体の一員として誘導していた。

43 看護観にかかわる葛藤体験に関する研究

北九州市立大学大学院 伊藤 尚加 ★  
北九州市立大学大学院 田島 司

看護師が重視している概念の一つに「看護観」がある。先行研究より、看護観の発展には葛藤体験が関与していることが推測された。そこで本研究では、葛藤体験の特徴を明らかにすることを目的としてインタビューを行い、得られたデータは質的データ分析を参考に分析した。その結果、葛藤体験は【治療方針に関連した葛藤体験】【看護方針に関連した葛藤体験】の2つに大別され、葛藤体験の特徴と看護観の関連について議論された。

44 「名探偵コナン」における被害者・加害者の関係及び事件の性質

鹿児島大学 林 田 恵  
鹿児島大学 池田真乃花  
鹿児島大学 立石 芽  
鹿児島大学 千代田歩笑  
鹿児島大学 横山 慧乃  
鹿児島大学 榊原 良太

「真実はいつも1つ!」一漫画、アニメ、映画などで絶大な人気を博する青山剛昌原作「名探偵コナン」。その人気の秘密は世間が持つ犯罪イメージが物語に反映されていることではないだろうか。そこで本研究では、作中に登場する被害者・加害者の年齢や性別、関係性、犯罪の動機、凶器等について、分析し、その傾向を探るものとする。

**【発達】**

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

**45 異性親子間の自己開示が子どもから見た異性親の魅力に及ぼす影響**

鹿児島大学大学院臨床心理学研究科 玉置 奈緒 ★

本研究では、異性親子間のコミュニケーションのなかでも「自己開示」に注目し、子どもが異性親に魅力を感じている場合、異性親子間の自己開示が影響を及ぼしているかについて大学生を対象に検討を行った。その結果、子どもから異性親への自己開示と異性親から子どもへの自己開示には有意な正の相関が見られ、双方の自己開示得点が高いほど、子どもは異性親の魅力が高く評価する傾向が見られた。

**46 「スマホ育児」の実態及び育児不安への影響を探る**

鹿児島大学法文学部 池平 萌鈴  
鹿児島大学法文学部 榊原 良太

現代の子育てにおいて、スマートフォンやタブレット端末が活用される場面は少なくない。この「スマホ育児」についてはこれまで多くの是非が問われてきている。本研究では、現在、乳幼児の子育てをしている方々の「スマホ育児」の実態を調査すると共に、世代間のスマホ育児への評価・認識の違いを明らかにする。また、現代の子育て環境における育児不安とスマホ育児の関連性を探ることを目的とする。

**47 親の非明示的期待が大学生の生き方に与える影響**

長崎純心大学大学院人間文化研究科 橋口 唯 ★  
長崎純心大学人文学部 吉武久美子

言葉では言わないが子どもに親の期待が伝わる非明示的期待があり、それが大学生の生き方に影響があるか検討をした。その結果、社会への適応期待因子である「人の役に立つような職種についてほしい」や「社会のなかで受け入れられる子どもになってほしい」などが、大学生の社会の中で人間関係など順応してほしいという親の期待が生き方にポジティブな影響があることが示唆された。

**48 ブックスタート経験が保護者及び生徒に与える影響－中学3年生時追跡調査Ⅱ－**

福岡女学院看護大学 原崎 聖子  
福岡女学院大学 篠原 しのぶ  
国際医療福祉大学 彌永 和美

乳児期に経験したブックスタートは保護者と赤ちゃんにどのような影響を及ぼすのだろうか。我々はその影響を調べるために2003年の10か月健診時から子どもが中学3年生に達するまでの15年間、縦断的研究を進めてきた。その結果、乳児期、幼児期、児童期に渡って様々な影響を及ぼしていることが分かった。今回、調査の最終段階である中学3年生時点の影響について、2017年調査Ⅰのデータに2018年データを加えて最終結果として考察する。

【人格】

第2日 11月17日(日)10:00~12:00

49 大学生における“キャラ”の一貫性が適応に及ぼす影響

鹿児島大学 川畑 優美  
鹿児島大学 島 義弘

本研究では、異性親子間のコミュニケーションのなかでも「自己開示」に注目し、子どもが異性親に魅力を感じている場合、異性親子間の自己開示が影響を及ぼしているかについて大学生を対象に検討を行った。その結果、子どもから異性親への自己開示と異性親から子どもへの自己開示には有意な正の相関が見られ、双方の自己開示得点が高いほど、子どもは異性親の魅力を高く評価する傾向が見られた。

50 大学生における自己愛傾向が劣等感に及ぼす影響

鹿児島大学 木村紗由美  
鹿児島大学 島 義弘

大学生の自己愛傾向が劣等感に及ぼす影響について、自己受容を媒介変数として検討した。自己愛の二種類の下位型は劣等感の強さに差があることが明らかになっているが、それは双方の自己愛が持っている評価機能の違いから生じる自己受容の差が関係していると考えられる。誇大性が高まると自己受容が進み劣等感は低下し、評価過敏性が高まると自己受容が出来ず劣等感は強まると考え、大学生 243 名を対象に質問紙調査を行った。

51 シャイネス IAT の 1 年間隔の再検査信頼性—潜在的シャイネスの変容可能性を含めた検討—

鹿児島大学教育学系 稲垣 勉  
流通経済大学社会学部 澤海 崇文  
鹿児島大学大学院教育学研究科 澄川 采加 ★

潜在的シャイネスを測定する Implicit Association Test の日本語版は、藤井・相川 (2011) によって作成され、複数の研究において信頼性・妥当性が確認されている。特に再検査信頼性については、藤井・澤海・相川 (2015) において 1 か月間隔で  $r = .54$  という、潜在的測度の中では比較的高い値が報告されている。本研究ではさらに長期間 (1 年以上) の間隔を置き、シャイネス IAT の再検査信頼性を確認するとともに、潜在的シャイネスの変容可能性についても検討した。

52 有能感の 4 類型と自己愛の 4 類型の対応関係の検討

鹿児島大学大学院教育学研究科 澄川 采加 ★  
鹿児島大学教育学系 稲垣 勉  
鹿児島大学教育学系 島 義弘

本研究は他者軽視と自尊感情からなる有能感の 4 類型と、誇大性と評価過敏性からなる自己愛の 4 類型について、両者の対応関係を検討した。青年期の学生 373 名を対象とした調査の結果、有能感の 4 類型と自己愛の 4 類型には一定の対応関係 (e. g., 有能感の 4 類型における全能型と自己愛の 4 類型における混合型、有能感の 4 類型における仮想型と自己愛の 4 類型における過敏型) がみられたが、一部は対応しない点もあることが示された。